

8月30日(2016年)となり、7日目の朝を迎えた。昨夜は鳳凰山から戻り一休みした後、夕食を食べに外に出た。タクシーに乗り鴨緑江の川岸で有名なお店を聞くと、「阿里郎(アリラン)」がいいというのでその店に向かった。字の印象から当然朝鮮料理店と思ったが、中に入ると中華料理しかない。丹東は川の向こうが北朝鮮だけあって朝鮮料理が有名なので、折角丹東に来たからにはそれを食べたかったが、山登りしたあとでお腹もすいていたしこの店で食べることになった。まずビールを頼むと、冷たいビールは「鴨緑江ビール」しかないというのでそれを頼む。度数が2.5度なのでアルコールに弱い私でも1本飲めるくらいだ。店は小綺麗であったが料理は口に合わなかった。食後、道路を挟んですぐ鴨緑江が流れていたの川べりを散歩した。有名な断橋のほんの少し川上に架かっている「中朝友誼橋」が紫色やピンク色にライトアップされてとても美しい光景であった。

今日はまずその中朝友誼橋と断橋を見ることにした。丹東市については、「都市めぐり」で紹介したが、2008年7月に行って以来すでに8年の歳月が流れているので改めて書いていきたい。前号



右の橋が「断橋」、左は1943年竣工の「中朝友誼橋」

で書いたように、約束した時間に登山による筋肉痛とやらで30分遅れてきた友人とタクシーで断橋に向かった。夜景も素晴らしかったが、日中見る二つの鉄橋の構造美は何とも言えない。私は新潟にも住んでいたことがあり、信濃川に架かる鉄橋を思い出す。8月の長岡の花火大会と共に。

「断橋」の名前の由来は、川の真ん中で橋が途切れているからである。北朝鮮側はコンクリートの橋げたが川面から突き出すように立っているだけだ。この鉄橋は、旧日本軍が日露戦争後、数年経った1909年に軍用鉄道の一部として造り上げた。橋の中央部は大きな船が来ると回転して通過できるようになっており、当時の技術の粋を集めて造られたものだ。しかし1950年に勃発した朝鮮戦争時、米軍機の爆撃でこの回転部分から北朝鮮側はなくなってしまった。その橋が今では多くの観光客を呼び丹東市の観光収入となっている。

断橋を見るのは久しぶりだが、その時と異なり入口に警備員が数人いて手荷物検査の機械を通すことになっていた。今はここは軍事教育拠点らしい。何でこの場所で手荷物検査をする必要があるのか分からない。雇用の確保のためかと思ったが・・・。30元支払って建物の中を抜け断橋の入口に立った。橋には両側に歩道がある。勿論鉄製である。鉄橋には中国の国旗がいくつも取り付けられておりパタパタと音を立てている。真ん中あたりまで歩くと爆撃の後をそのまま残した場所に着く。鉄骨が二重、三重にねじ曲がっていて生々しい。一角に「断橋遺址」および中国語で書かれた説明版が設置されている。それには橋の歴史についてだけで旧日本軍が建設したとか設計者の名前などは全く触れていない。その点旅順の近くの旧日本軍が建設した巨大なダムはその旨も書かれて



「虎山長城」に入場したところに巨大なモニュメント

いた。このダムのおかげで旅順地区はもちろん大連市の民生や産業に大きく貢献している。前述したが断橋の百メートル上流には新たに鉄橋が架けられている。この鉄橋は、中国と北朝鮮との貿易、というより北朝鮮への援助物資を送り込むためにあるように見える。

断橋を見終わり、川岸を散策するとあちこちに沢山のチマチョゴリを置いた写真屋がある。断橋などをバックに写真を撮ってハガキ大にしてラミネート加工したものを1枚10円で売っていた。

さて、もう一つの有名な観光名所である虎山長城に向かった。市内中心部から約20km近く離れたところにあり、タクシーでは40元くらいである。虎山長城に着き60元の入場券を買い、入口からの観光用専用車もすすめられ10元支払う。城門までそれほど距離があった記憶はないが、8年前と違うのかなと思いつつ車に乗り込んだ。車はわずか1分余りで城門に着いたが、これで10元取るとはイカサマである。前回と変わった点はもう一つある。入場したところに巨大なモニュメントが造られていたことだ。その下部に次の文字が大きく書かれていた。それは、「万里長城東端起点一虎山長城」とあり、意味は読んで字の如くである。

城門を入ると、幅3メートル程度の城壁の上に造ってある道を上がっていく。北京の長城と造りは同じであるが、使用されているレンガは比較的



「一步跨」石碑

新しく歴史を感じさせるものではない。しかし発掘調査で何らかの遺跡が見つかってその上に城壁を造り上げたのであろう。入場券などには歴史的経緯は何も触れていない。入口からすこし入ると北東方面に鴨緑江の中州が見え始める。この辺りの中州はすべて北朝鮮に属している。何十軒もの平屋の民家が見える。うら寂れた感じである。そのうち急な石段が続いたあと長城の一番高いところに出た。高いと言っても100数十メートルしかない。しかし周りには高い山がないので見晴らしは極めてよい。この地点からは山の反対側に降りるが、急な石段がかなり続き手すりを持ちながら一步一步下っていく。50～60段下がったところに立札があり、左に行くと「一步跨」とあるのでそちらに進むことにした。「一步跨(中国語でイーブクウという)」とは、そこに中州まで幅10メートルくらいの分流が流れており、一步で跨いでいけるほど北朝鮮に近いということで名所の一つとなっている。

「一步跨」への道は上り下りの連続でおまけに太い木の根っこが行く手を邪魔するように伸びており、少々難儀である。その傍らを若い男性二人が追い越していった。少し行くと急な斜面のところに先ほどの男性達が立っている。どうやら年寄りの私を放って置けないと思ったらしく、手を取って引っ張り上げてくれたり大丈夫かと中国語で声をかけてくれる。吊り橋まで来て二人と話をした。

何でもマレーシアから夏休みを利用して旅行中であるとのこと。マレーシア人は‘わんりい’と縁のあるジェイソンさんしか知らないが、この二人の男性もジェイソンさん同様とてもやさしい。マレーシアに対する印象が更によくなった。

ようやく「一步跨」と彫った石碑の前に着いた。すぐ眼前に鉄条網を張り巡らせた北朝鮮の中洲が見える。8年前と同じ光景になぜか安心する。石碑の近くで地元のおばさんが桃を売っていたのでそれにかぶりつきながら出口に向かった。タクシーに乗り込み、12時をまわっていたので運転手に韓国料理の美味しい店を聞くと、「長白山」がいいと言うのでそこに向かった。有名な店だそうでテレビで紹介されたとか。入口の看板にもその

ように書いてあった。ビビンバやキムチの味はとてもよかった。食後ホテルで荷物を受け取り、駅まで歩いた。切符売り場に行くと16時28分の動車が取れたので時間まで待合室でゆったり過ごした。動車の大連北駅到着予定時間は、18時47分であったが、例によって3分早く18時44分に到着した。あっという間の丹東旅行であった。

翌31日は、孫へのお土産を買いに行ったり、市内の労働公園からすこしのところにある「松山寺」にお参りに行ったりしてゆったりと過ごした。大連もすぐ9月であるが流石に朝晩ひんやりしてきて街行く人も長袖の人ばかりとなった。 **(続く)**

■掲載写真はいずれも Google Panoramio より